



のぎく分校の新たな役割に向かって

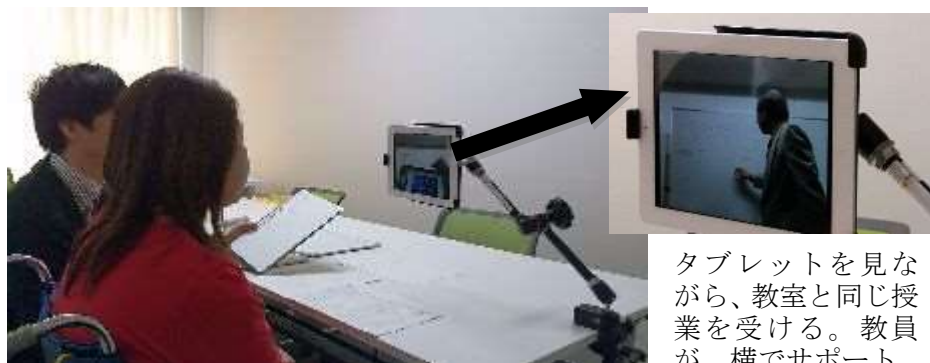
県立精神医療センターに入院する小中学生の教育保障と前籍校へのスムーズな復学に取り組んできた当校。今後もこの取組を充実させると共に、関係機関との連携や児童生徒・保護者のニーズに応じた、新たな役割に挑戦していきます。

【これから検討していく、新たな役割の例】

*下の写真は、イメージです



<入院し、登校できない児童生徒への遠隔授業>



タブレットを見ながら、教室と同じ授業を受ける。教員が、横でサポート。

入院したけれど、数週間登校できない児童生徒や、登校して友達と一緒に授業を受けることが難しい児童生徒に、学校と病室をネットで結んだ遠隔授業で教育保障を行うことができます。

<退院し復学した児童生徒、小中学生で個別支援を受けたい児童生徒への支援>



○ アフターフォロー

退院後、スムーズに復学できるように、在籍校での様子を聴き取り、必要な支援や情報提供を行う「アフターフォロー」の体制を整えます。

○ 不登校等の個別支援

小中学校の不登校などで在籍校以外で学習したい児童生徒に、週 1 回 1 時間程度の個別支援を行います。補充学習や人との関わりなどを支援し、学校や社会への適応を促します。

来年度、51 年目となる 当校のミッション

今年度、創立 50 周年記念事業を通し、当校の沿革を振り返ったとき、改めて心身症等の児童生徒への適切な医療と教育の大切さを実感することができました。もし、当校がなかったら、入院生活で一日が終わり、復学しても学習の遅れで苦しむ児童生徒が多くいたことでしょう。

当校は、**病気や支援が必要なすべての児童生徒の教育保障をミッション**として、関係機関と連携を強め、これからも取り組んでいきます。



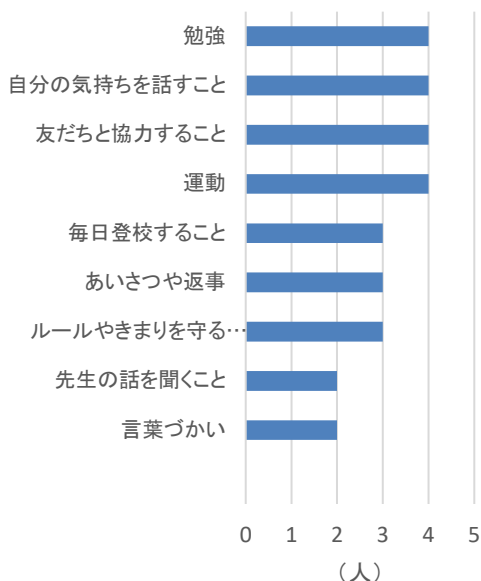
50 周年事業 児童生徒共同作品

平成30年度 学校評価アンケートの結果から

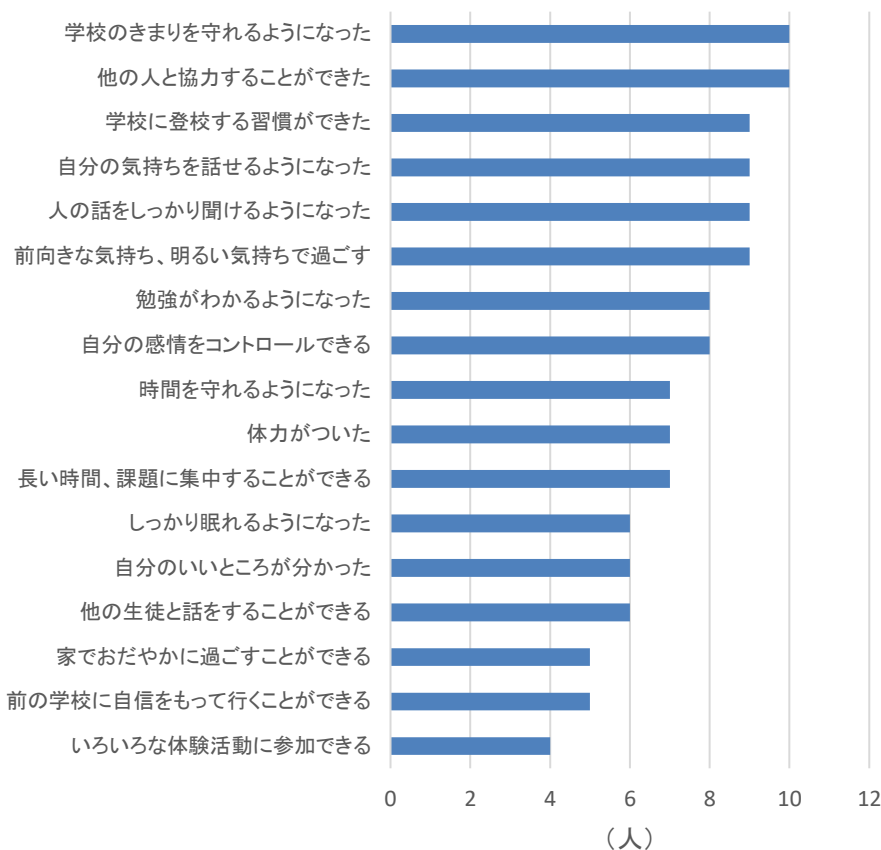
保護者及び病院の皆様からご協力をいただきました、学校評価アンケートの結果がまとまりましたので、お知らせいたします。児童生徒からの意見を含め、今後の学校運営や教育活動に、確実に生かしてまいります。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

1 児童生徒アンケート結果から

【小学部生徒】がんばったことやで
きるようになったこと



【中学部生徒】自信が持てたこと、できるようになったこと、
自身が変わったと思うこと



【中学部生徒】転出時の意見や感想（抜粋）

- ・とてもいい学校でした。自分もスタートに立てた。
- ・生徒の意見を尊重し、先生方が調整してくださったことがとてもよかった。
- ・生活習慣がくずれていましたが、のぎくに来て、直すことができました。この生活習慣を続けていきたいです。
- ・勉強がたくさんわかって、学校に登校する習慣がついた。
- ・短い期間だったけれど、とても楽しくすごせてよかったです。
- ・先生方も優しくていい先生ばかりでした。
- ・前回入院してのぎくに登校してたときにいた先生が、今回担任でうれしかった。

2 保護者アンケート結果から

(%)

	質 問 項 目	そう思う	まあそう思う	そう思わない
1	お子さんは、当校での活動を楽しみ、安定した学校生活を送っている	81.0	19.0	0.0
2	お子さんは、当校での学校生活を通して成長することができた	81.0	14.3	0.0
3	連絡ノートや担任との懇談、保護者会等を通して、学校の考えや取組がよく分かる	95.2	4.8	0.0
4	教職員は、病気や発達障害等の専門的な知識をもち、個にそった接し方をしている	90.5	9.5	0.0
5	学校は前籍校との連携に努め、指導の経過、試験通学や前籍校復帰のための連絡調整が十分に行われている	85.7	14.3	0.0

〈ご意見・ご要望〉 抜粋

- ・学校での出来事を電話連絡いただき、本人がどの様に過ごしていたか、しっかり行けたか、などの話を聞けて良かった。
- ・本人の意見をしっかり聞いて頂き、それに対しても対応良くしていただき、安心しておまかせできた。
- ・大変お世話になりました。本人も大きく成長することができたようです。分校のことを理解できましたので（病院のことも）今後活かしていきたいと思っています。
- ・本人もここでの通学を支えに入院生活をのりきれたようでした。
- ・1人で思っていること、不安なことを話できるようになって今後もっと上手にできるよう声掛けたいです。
- ・小学生時、そして今回中学生と大変お世話になりました。
- ・長い間お世話になりました。心のケアから体のケアなどしていただき、親子共々かんしゃでいっぱいです。10ヶ月間ありがとうございました。
- ・はじめ、慣れるまでに時間がかかってしまいましたが、先生方のおかげで少しずつ活動できるようになり、感謝しています。
- ・授業の遅れがとても気になっていたのと、自習学習が全くできなかったのが心配でしたが、それも改善されたように思えます。
- ・入院時、精神的にかなり参っていたと思われる彼に適切な指導をして頂けたので、本当に感謝しています。
- ・通学も出来ると良いですね。
- ・きめ細かく連絡をいただき、安心して過ごすことができました。

3 病院職員アンケート結果から

(%)

	質 問 項 目	そう思う	まあそう思う	そう思わない
1	児童生徒は、当校での活動を楽しみ、安定した学校生活を送っている。	37.5	56.3	6.3
2	学校行事、校外活動や児童生徒会活動など、豊かな心をはぐくむ活動が適切に行われている。	37.5	59.4	3.1
3	教職員は、児童生徒一人一人を大切にし、個にそった接し方をしている。	40.6	43.8	15.6
4	教職員は、病気や発達障害等の専門的な研修を積み、教育活動に生かしている。	25.0	62.5	12.5
5	教職員は、病院職員と連携しながら、児童生徒を理解し支援している。	43.8	50.0	6.3
6	学校は前籍校との連携に努め、指導の経過、試験通学や前籍校復帰のための連絡調整が十分に行われている。	59.4	40.6	0.0

〈ご意見・ご要望〉 抜粋

・退院した子供たちが、のぎく分校の教育がとても良かった。戻ってからものぎくのようなのだったらいいのに、という言葉言ってるのをよく聞きます。一人一人を大切にする教育は素晴らしいものなのだと思います。ぜひ、前籍校に戻ってからもその要素が少しでも継続されるよう、のぎくのやっている教育を他の学校にも理解されるよう伝えていただくよう、お願いしたいと思います。

・カンファレンス等で貴重なご意見をいただき、児童への関わりの参考にさせて頂いています。多くの児童から“通いやすい” “わかりやすい” “楽しい” という声を聞いています。

・児童それぞれのレベルや入院目標に合った対応をしてくださる先生が多く、とてもすごいと尊敬しています。しかしながら、熱心すぎるがゆえ、入院目標よりも高いレベルを児に求めてしまう先生がおり、なかなか登校に前向きになれない生徒もみうけられました。例え、教職員からみてレベルの低い目標の児がいても、スモールステップでやって頂けるとよりよいと思われれます。

・発達障害だけでなく、不適切な養育のため関わりが難し子が多い中、学校の先生方の手厚い対応で学校が好きになった子がたくさんいます。ありがとうございます。その反面、「先生方への反発や抵抗」というやり方でしか自分を出せない子に対して、非難、ダメ出しされる方も若干いらっしゃるように思います。行動の裏にある、思いや、その子の生きづらさにも目を向けていただければと思います。

4 学校から（児童生徒、保護者、病院関係者アンケートの結果について）

(1)児童生徒アンケート結果より

当校での学校生活を通して、自信がもてたことやできるようになったことを自覚できたことがわかります。当校で大切にしている自己肯定感を高める支援に効果があったと考え、今後も保護者、病院関係者、当校教職員が連携しながら、児童生徒の支援をしていきます。

(2) 保護者。病院アンケートより

どの項目も80%以上の肯定的評価でした。病院関係者の評価で「個にそった接し方」「専門性」に対しての意見をいただきました。今後も研修を深めながら、教職員の専門性が高まるように努力していきます。

当校は今年度、教職員として心身症等の専門性の向上、50周年記念行事への取組、地域資源を活用した授業等を重点として取り組んできました。今後も特別支援学校としてセンター的機能等を高める取組を充実させ、子供たちの成長につながる支援につなげていきます。